

令和6年度 東京都立砂川高等学校学校経営報告（定時制課程）

東京都立砂川高等学校
校 長 大 場 充

【教務部】		
内 容		評 価
重点目標	(1) 授業外学習(放課後・長期休業中の補習等)をさらに充実させる。 (2) 授業の質・量の確保を図るとともに、各教科で本校における授業改善・生徒の学力向上に取り組む。 (3) 少人数指導・習熟度別授業を生かし、個に応じた学力の伸長を図る。 (4) 学校外の学修(資格取得など)への取り組みを推奨する。 (5) 3修制(3年間での卒業)を推奨する。 (6) 学力向上研究校として基礎学力が不十分な生徒への支援を行う。('校内寺子屋'事業に取り組む) (7) 通信制課程との連携を今後も進めて行く。 (8) 教務部内の仕事の組織化とOJTを推進する。 (9) 礼を正すという意味で、授業の始まりと終わりの挨拶をきちんと行う。 (10) 教務部内の業務の効率化や会議等の時間短縮などライフワークバランスに配慮した働き方改革を推進するように努める。 (11) オンライン学習・遠隔教育などを考察し、ICTを活用した学習を推進して行く。	
具 体 策	(1) 増学級に向けて、教科主任会・教育課程委員会で検討を進め、教育課程を確定する。(自由選択科目・学校設定科目の確定、設置曜日も含める) (2) 教科主任会・教科会を定例開催し、情報と課題を共有して授業改善に取り組む。長期休業中の講習の枠組みなど、組織化を図っていく。 (3) 観点別評価による年間授業計画及び週案を各教科で円滑に進められるようにする。 (4) 各教科との連携を通して、学校全体で基礎学力の向上から応用力をつけることの充実を図る。発展的な学習に取り組んでいける生徒、時間をかけ基礎力から取り組んでいる生徒双方に、個に応じた指導を行い、学力の向上を図る。 (5) 通信制との連携を図り卒業できる環境を考察し、履修規定等について検討考察を行う。 (6) 会議等の効率化・スリム化を図り、授業準備時間を確保し、授業改善に取り組むための環境を整備して行く。 (7) 各授業で授業の目的・到達度目標を生徒に明示し、学習に集中して取り組む動機づけとする。また、資格試験への挑戦も促していく。 (8) 生徒の学習意欲向上のためのICTの活用を図る。(使い易い環境の整備を進める)	
数値目標	(1) 卒業年次生の卒業率 95%以上(4月1日付卒業年次生127名:120名以上) (昨年:4月卒業年次生135名、卒業者133名:98.5%) (2) 中途退学率3%以下(10名以下)(4月9日在籍446名の2.2%→9.8名) (昨年:4月7日在籍者445名、退学者7名 1.5%) (3) 転学・転籍者数 10名以下(2.2%以下) (昨年 転籍者10名、転学者8名 計18名 4.0%) (4) 長期休業中の補習・講習の開講講座数45以上(昨年:78講座、一昨年44講座) (5) 学校外における資格取得(技能審査)70件以上(昨年68件) (6) 生徒による授業評価 生徒の授業に対する肯定的評価90%以上 (7) 年間成績優秀者25名以上 (8) 年間出席不良者20名以下、年間皆勤10名以上	A
成 果	・重点目標については、ほぼ達成することができた。 ・ICTの活用については、IT推進委員会を中心に進んでいる。 ・学力向上における寺子屋事業については、順調に実施された。来年度も実施予定。 ・ICTにより会議の効率化を図ることはほぼできた。	
目標達成に向けての課題	・退学者については、今後増加する可能性はあるが、年度末には昨年度より抑えたい。 ・寺子屋事業については、生徒の出席率が維持できるように努めていきたい。 ・通信制課程との交流を進めて行くように努める。	
対 応 策	・現状を踏まえてできるところからしっかり対応していく。 ・部内での報告、連絡、相談が円滑に進められるように努める。 ・管理職及び各分掌等とできる限り連絡や相談をして円滑に進められるように努めて行く。	

【生徒指導部】		
内 容		評 価
重点目標と 具体策	1 規範意識やマナーを体得した生徒の育成 1) 生徒に規範意識やマナーを体得する目的を理解させ、対話を通じながら生徒を指導する。 2) 全教職員が生徒指導に関わりやすくなるような体制や方法を整備する。 3) 生徒の自立を促し、規範意識を繰り返し意識させ、特別指導の未然防止を図る。 4) 無断遅刻・欠席指導を行う。自らの生活を振り返りながら、自己管理できるよう指導する。 2 生徒の自主的な活動の活性化（部活動・文化祭スポーツ大会の充実・生徒会組織の設立準備） 1) 学校行事や学校生活において委員会・部活動を積極的に活用し、生徒が活躍する場を増加させる。 2) 生徒が主体的に活動できる生徒会組織の設立準備をする。 3 いじめ・体罰のない安全・安心な学校 1) 指導や支援の情報を蓄積し共有できる方法を整備する。 2) 自転車通学時のヘルメット着用を必須とし、事故防止を心がけさせる。	
数値目標	1 特別指導件数年間 7 件以下 2 行事（スポーツ大会・文化祭）への参加者満足度 80 % 以上 3 部活動入部加入率 60 % 以上	
成果	1 規範意識やマナーを体得した生徒の育成 ・頭髪等の身だしなみ検査は、定期的に年次・担任と連携し、丁寧な指導を行った。生徒との対話を重視しながら指導してきたので、現在は、ほぼ全員の生徒が規範意識をもち、生活している。 ・特別指導 SNS：2 件、5 名／バイク：1 件、1 名／バイク・喫煙 1 件、3 名／喫煙：3 件、6 名 合計 7 件、15 名と多かった。情報があるとすぐに生徒指導部や担任で、巡回や聞き取りを行ったため、早めの対応ができています。 ・生徒指導部規定や特別指導日誌・マニュアル等は、現在の指導にあわせて改訂を行う予定である。 2 生徒の自主的な活動の活性化（文化祭スポーツ大会の充実・生徒会組織の設立準備） ・生徒アンケートの結果によると、スポーツ大会は（95.1 %）%（昨年 77.0 %）、文化祭は（92.7 %）（昨年 91.6 %）が肯定的（よかった、まあよかった）な回答で、大幅に満足度があがった。 ・今年度の行事の充実もあり、生徒が自主的に動くことができるようになり、またその楽しさも実感できるようになった。2 月に生徒会役員選挙が行われ、生徒会が正式に発足した。様々な生徒主体の活動が期待される。 3 部活動 ・設置部数：運動部 10 文化部 12 同好会 6（柔道同好会新設） ・実績（年間）：少林寺拳法部、陸上部が全国大会に出場。部活動加入率は、R4 年度 45.7 % R5 年度 48.1 % R6 年度 52.9 %（男子 116 名、女子 112 名計 228 名）である（同好会含む）。本年度新たに、柔道同好会や水泳部が設立された。来年度は部活動の加入率のさらなる向上が課題である。	A

	4 自転車通学時のヘルメット着用 自転車通学者（1年次 55 名、2 年次 35 名、3 年次 28 名 12 月末） 三部合同の登校日などに、指導を行っている。	
今年度のまとめと来年度に向けての課題	今年度の生徒指導部は「改革の 1 年」であった。「スポーツ大会の内容の変更、文化祭の校内発表を含めた 2 日間開催。後夜祭での花火、外部講師による講座の増加。生徒会の発足と生徒会役員、生徒部指導規定の改定等、積極的に改革を行ってきた。また、生徒と対話しながら活動をすすめることに重きをおき、行事や委員会など、時間をかけて取り組んだ。結果として、生徒自身も積極的に行事や委員会に取り組むようになり、自分たちもやればできるという自己肯定感を高める機会となり、学校全体としての活気が出てきた。生徒会が発足したので、生徒主体の活動の活性化にむけて、サポートしていきたい。 また、今年度は特別指導が多かった。来年度も日頃から校内巡回等を徹底し、規範意識を体得させると同時に、生徒と教員との信頼関係の構築に向けた体制を一層強化することが重要である。	
対応策	・生徒会組織・活動の確立。初年度のため、自らつくる生徒会を目指し、組織化していく。特に生徒会の在り方や生徒総会の運営、行事の活性化などに重点をおく。 ・生徒会中に、校則の見直しを行う。 ・年次と協力し、特に 1 年次に SNS トラブルの指導、講話を行う。 ・外部機関や警察と協力し、諸問題に関する講演の機会を設ける。 ・部活動の活性化。掲示板、ホワイトボード、Instagram などを利用して部活動の様子を発信する。	

【進路指導部】		
内 容		評 価
重点目標	(1) 生徒一人一人への支援と自立意識の啓発 (2) 砂川高校のキャリア教育の充実 (3) 地元企業との連携 (4) 上級学校との連携	

具体策	●生徒一人一人の個に応じたきめ細かな指導を行う。 ●進路実現を確実にするため、早期からの取り組みと個別対応に重点を置く。 ●以下の各項目への取り組みを行う。 (1)キャリア教育指導体制の確立 砂川高校のキャリア教育の計画の策定および推進 (2)1年次初期の学習習慣の確立と進路意識の啓発指導 家庭等における学習習慣の確立 (3)年次への適切な進路情報の提供と進学・就職ガイダンスの充実 ①外部研究会・説明会への積極的な参加 ②総合型選抜、学校推薦型選抜に対応した面接・小論文指導の充実 (4)キャリアガイダンスの充実 ①3年間を通じた系統的な進路活動の実現 ②グループによる体験的な学習活動等により、意欲と社会的基礎的能力を育成 ③生活に関する基礎的な理解と適切な職業理解・職業観の育成 ④東京都の「企業・NPO等と連携した『社会的・職業的自立』支援事業」の活用 ⑤進路未決定者に対するYSW・NPO法人育て上げネットと連携した指導の充実 (5)地元企業との連携 多摩ブルー・グリーン倶楽部を中心とした地元優良企業との連携 特定非営利活動法人育て上げネットとパートナーシップ協定締結 (6)上級学校との連携 ①上級学校による出前授業・夏期講習・短大フェアの実施 ②高大連携している上級学校との連携教育 ③夏季休業中に専門学校見学会の実施	
数値目標	進路未決定者(大学・短大・専門進学及び就職以外の生徒)の割合10%以下におさめる。(参考:令和5年度4.5% 令和4年度15.6% 令和3年度13.5%) ※3月13日現在で進路未決定者の割合は10%	
成果	(1)今年度のキャリアサポーターの面談利用者数は105名・利用率47%(昨年度22名)であった。 (2)新規行事である、インターンシップ、オープンキャンパス・企業見学ツアー、短大フェア、就職フェア、公務員フェアについては来年度も実施し、進路選択のミスマッチを防ぐことができた。 (3)地元企業9社と連携し、就職希望者対象にインターンシップ(新規事業)を実施し、生徒20名が参加した。 (4)明星大学・日本工学院専門学校・嘉悦大学と連携し、出前授業を3回実施(参加者36名)、チャレンジプログラムを推進(参加者4名)した。 (5)嘉悦大学と高大連携協定を締結し、日本文化への理解促進と留学生との親睦を深める目的として、豊洲市場観光・スポーツ観戦ツアーに3名参加した。	A
目標達成に向けての課題	(1)キャリアサポーターの周知。 (2)就職希望者向けの行事拡大。 (3)地元企業との継続的な連携事業の確立。 (4)高大連携のさらなる発展。	
対応策	(1)年度当初において生徒への紹介や保護者会での紹介を実施し、生徒と保護者への周知を徹底していきたい。 (2)職業体験マッチングプラットフォーム「DEXIT(デグジット)」(新規事業)の活用を推進し、さらに、卒業後のサポート体制に関しても、たちかわ若者サポートステーションと連携し、進路ミスマッチを防ぐ。 (3)就職フェアや企業説明会等を実施し、地元優良企業の魅力を伝える行事を実施していく。 (4)高大連携している上級学校と高大連携プログラムを推進していく。	

【総務部】		
内 容		評価
重点目標	1. 生徒募集対策の質向上 2. 校内募集対策行事(体験授業、学校説明会、個別相談会)における生徒の活躍の促進 定常的な業務の効率化	
具体策	1.1 募集対策行事の参加者増 1.2 新入生アンケートの分析を通じた発信の精度向上(リーチすべき層に最適な方法で情報を届ける)	

	1.3 III部の魅力を発信する。 1.4 公式ウェブサイトおよびXで視覚的に分かりやすく、訴求力のある情報発信を行う。 2.1 年次担任との連携を強化し、在校生の募集の幅を広げる。 2.2 行事に参加した生徒の主体性を引き出す工夫を行う。 3.1 風通しの良い組織風土を維持し、業務の進捗を全員で共有する。 3.2 ICTを活用し、各業務の負担軽減を図る。	
数値目標	・入選倍率 前期 1.2 倍、後期 1.2 倍（前年度 前期 1.22 倍、後期 1.28 倍） ➡今年度：在京 1.2 倍、前期 1.08 倍、後期 0.88 倍（最終応募倍率） ・ホームページアクセス数：年間 250,000 件以上（前年度 329,587 件[3/31 時点]） ➡今年度：380,944 件（2025 年 3 月 10 日時点） ・校内募集対策行事参加者数 1,000 名以上（前年度 978 名） ➡今年度：1,155 名	A
成果	・入選倍率の目標は達成しなかったが、①増学級②立川緑高校開設③私学無償化の所得制限撤廃など倍率減につながる外的要因が複数存在したことを考えると、倍率維持に向けた取り組みの成果があったといえる。 ・年間ホームページアクセス数は3/10時点で380,944件、達成率152%。 ・ホームページの更新回数が向上した。3/10時点で462回（昨年度3/31時点で374回） ・学校広報チーム（来年度は広報委員会）を立ち上げ、行事において生徒懇談ブースや生徒による学校紹介を行うとともに、Instagramの投稿や動画の作成を行い、生徒が主体的に広報活動に関わる体制を構築した。 ・説明会において部活動体験を新たに行い、学校の活発な側面を発信できた。	A
来年度に向けての課題	A 今年度に引き続き、ホームページの更新を維持する。特に年次や分掌と連携し、一部の負担が過重にならないような体制を構築することが求められる。 B 立川緑高校の開設に伴い、本校の特徴をわかりやすく発信し、マッチする層が本校のことをよく知り、志望できるような広報活動が求められる。 C 引き続き業務の効率化および情報の密な共有を図り、効果的な分掌運営が行われるようにする。	
対応策	A Teams のチャット機能などを活用し、年次や分掌が簡単に HP 原稿を更新担当に送ることのできる体制を維持する。 B HP や説明会、合同相談会などで本校の特徴をわかりやすく伝える資料を作成したり、学校説明会での説明を焦点化したりするなどして、本校の目指す方向性が来場者にはっきりと伝わるような工夫を行う。 C Teams やファイルサーバを用いて情報を共有するとともに、分掌会議の場で担当業務の現状などを随時お互いに報告し、分掌全体で目標達成に向けた効率的な業務を行う。	

【保健相談部】		
内 容		評 価
重点目標	1 穏やかに安心して学べる学校の実現を目指す 2 怪我などを少なく安全な学校の実現を目指す 3 学校環境の整備を通して、安らげる学習環境の実現を目指す 4 生徒の健康増進の啓蒙活動に努める	
具体策	1 生徒の実態把握や留意すべき生徒の情報収集に努め、全職員に継続的に情報を提供する。 2 必要な生徒を外部専門家につなぎ、適切な支援体制をつくる。 3 外部専門家等の相談内容や記録を保管し、継続的な支援を行う。 4 生徒理解のための研修や情報交換、カンファレンスを適宜行う。 5 保健室の来室目的を適切につかみ、個に応じた対応と指導をする。 6 通信を発行し、情報提供や保健指導を行う。 7 「総合的な学習の時間、探究の時間」を使い、ソーシャルスキルや多様性の理解に関する講座を主催し生徒の成長を促す 8 校内美化と学習環境整備について美化委員、保健委員の指導にあたる。	

成 果	1 保健室の来室者数 保健室利用生徒数（2月までのべ人数）（人） 今年度905人（内訳 内科：667人 外科：191人 相談：47人） 昨年度804人（内訳 内科：316人 外科：153人 相談：33人） 月別の来室人数は、6月、9月、11月の来室人数が多い。休み明けや学校行事後に、人間関係や学校疲れなど様々な理由で保健室来室が多くなる傾向がある。 2 外部専門家相談数 延べ人数2月末まで延べ件数（昨年値） ・SC:生徒185（121）：保護者20（20）：教員打合せ：249（229） その他63（15） 合計 517（385）件 ・YSW:生徒80名（119）：保護者6（13）：他0（0）合計64名（136） ・特別支援教育心理士 37名（昨年20）保護者15（10） 他12合計64名 ○SC 面談の生徒面談数が64件増加した。今年度SCが3名体制となり、教員間やSC間との打ち合わせ件数が増加している。 ○YSW への相談内容は、突発的に進学のお金にかかる内容が増加した。 ○1年入学後、登校できない生徒に対し特別支援教育心理士の面談を行った3年で進路を決める段階で自己理解・進路決定ができず、心理士に相談するケースが複数名あった。発達試験（WAIS・WISC）を校内で3名の生徒が受けた。 3 不登校率 昨年度より中学の欠席日数が入試書類に記載されていないため、中学時の不登校人数が把握できなくなった。2月現在欠席30日以上の子生徒をカウントした。 1年次 欠席30日以上：10名（6.8%） 2年次 欠席30日以上：18名（12.4%） 3年次 欠席30日以上：29名（21.8%） 4 教育相談委員会およびケース会議 教育相談委員会年に4回開催。ケース会議等10回開催 対象生徒：2名 5 学校生活支援シート作成状況 1年次生13名 6 生徒・教員向け （1）総合探求 ①1年次対象 ・「ストレスマネジメント」11月14日（木）講師：本校SC ・「困難を持つ人々とともに生きる～がんへの理解～」12月17（火）講師：がん経験医療従事者 ・「アサーション」 1月16日（木）講師：本校SC ・「精神疾患の理解と適切な対応」3月7日（金）講師：本校精神科医・地域ネットワーク多摩、立川市役所、東京都多摩保健所 ②2年次対象 ・「いのちとからだの話」7月11日（木）講師：東京都助産師会 5名 ・「多様性の理解～LGBTQについて～」12月13日（金）講師：当事者 （2）職員研修 第1回 ①「生徒についての情報共有」4月5日（水）13：30～14：30 ②「1年次TKテストバッテリーM2+ 結果説明会」 日時：令和6年5月21日（火）14：40～15：30 第2回 「メンタルに困難を抱えた生徒の巣立ちをどう支えるか」 日時：令和6年10月25日（金）14：30～15：30 講師：精神科校医 梶 達彦 先生	A
-----	--	---

	第3回 「自己理解と自立」 日時：令和6年12月4日（火）14：30～15：30 講師：特別支援教育心理士 田中 有 先生 （3）自立支援研修・地域連携等 ・立川ALC訪問 ・八王子拓真高等学校訪問 ・七生特別支援学校訪問 ・若者の自殺対策推進ネットワーク会議@東京都多摩保健所	
来年に向けての課題	学校全体では、落ち着いた学校生活を送れている生徒が多く、中学時に不登校を経験した生徒も高校で登校できているケースが多い。日々の生徒の様子から、専門家につなげるということが重要であることは校内全体で理解していると感じる。生徒や教員向きの研修も多く、保健相談関係の知識を深め、相談することの重要性も理解してきている。不登校の生徒・不登校気味の生徒も多いので、更に不登校対策、安心して生活できる環境を整えること大切であるが、保健相談部だけでなく、今年度に引き続き、学校全体で学校に登校するしくみ作りの工夫が必要かと考える。	
対応策	1 不登校対策 ○心配ごとがあれば専門家につなげる。つなげる仕組み作り、工夫。 ○入学当初のクラスなど交流。部活動や行事などで仲間作りや居場所作りを重視する。Ⅰ部、Ⅱ部、Ⅲ部など学年を超えた仲間作りの機会を作る。 ○学校全体で対策を考える（教務・生徒指導部・進路的な対策などを立てる。） ○保護者支援・・・特別教育心理士の面談など 2 自立支援 ○進路決定の中での自己理解と自己決定力を培う。 ○発達課題など気になる生徒を特別支援教育心理士につなぐ。 ○進路等で家庭の経済に困難をかかえる生徒を積極的に YSW につなぐ。 3 NP0 法人育て上げネットとの連携 ○キャリアサポーターの活用（校内別室指導の一環として行う。自己理解と進路決定。保護者対応など）	

【1年次】			
内 容			評 価
重点目標	（1）自立した大人になるために、知識・技能を深め、思考力・判断力・表現力を培う。 （2）基礎学力の着実な定着を図り、学習習慣の確立と学習意欲の向上を目指す。 （3）将来の社会生活を意識し考えさせ、主体的に規範意識を身に付けさせる。 （4）自己理解を深め、互いの個性を尊重し、他者を思いやる心を育むことで、確実なコミュニケーション能力を伸ばす。		
具体策	（1）総合的な探究の時間等を活用し、自己の将来の生き方や進路について考えさせ、そのために必要な授業や家庭学習の大切さを各教科と連携し、粘り強く指導をしていく。 （2）各分掌や外部の専門機関との連携を密にし、個々の生徒の特性等に適切に対応する。また、挨拶の励行、遅刻・身だしなみ指導等について、教員間の共通理解の下に協力して一貫性のある指導を組織的に展開する。 （3）生徒が主体的に取り組む意欲をもって、自己実現に必要な能力を養うとともに、共に学び、活動することを通して存在感や自己実現の喜びの得られる機会として、ホームルーム活動や学校行事等を活用していく。		
数値目標	（1）成績優秀者20名以上 （2）年間特別指導件数5件以下 （3）出席不良者15名以下、皆勤学期15名以上	成果	B
来年度に向けての課題	（1）成績優秀者数の増加、成績不良者の減少 （2）適切な人間関係構築、問題行動の減少 （3）出席不良者の減少		

対応策	○二者面談・三者面談を積極的に行い、総合的な探究の時間や夏期講習等も活用しながら、進路意識の醸成を図る。早めの対策に加え、来年度中に三者面談を行い、本人・保護者の意識すり合わせも適切に行う。 ○LHR や総合的な探究の時間等のクラス・年次単位での活動の機会を利用し、グループワーク等を増やし、部を超えた人間関係の構築、現在構築している人間関係を深めさせる。 ○出席不良者に対し、引き続き担任との個人面談や保護者への連絡等を密に行い、SC・YSW との面談も実施しながら、減少を図る。
-----	--

【2年次】			
内 容			評 価
重点目標	(1) 自立した大人になるために、知識・技能を深め、思考力・判断力・表現力を培う。 (2) 基礎学力及び学習習慣の定着を図らせ、成績優秀者数の増加を目指す。 (3) 主体的に規則正しい生活を送らせ、出席不良者数・退学者の減少を目指す。 (4) 互いの個性を尊重し、敬愛心を養い、コミュニケーション力を伸ばす。		
具体策	(1) 総合的な探究の時間等を活用し、自己の将来の生き方や進路について考えさせ、そのために必要な授業や家庭学習の大切さを各教科と連携し、粘り強く指導をしていく。 (2) 各分掌や外部の専門機関との連携を密にし、個々の生徒の特性等に適切に対応する。また、挨拶の励行、遅刻・身だしなみ指導等について、教員間の共通理解の下に協力して一貫性のある指導を組織的に展開する。 (3) 生徒が主体的に取り組む意欲をもって、自己実現に必要な能力を養うとともに、共に学び、活動することを通して存在感や自己実現の喜びの得られる機会として、ホームルーム活動や学校行事等を活用していく。		
数値目標	1 成績優秀者20名以上 2 年間特別指導件数0件 3 出席不良者30名以下、皆勤及び精勤20名以上、退学者5名以下	成果	B
来年度に向けての課題	(1) 進路決定率90%以上 (2) 成績優秀者数の増加 (3) 出席不良者の減少		
対応策	来年度は卒業年次対象学年として、自分の進路に向けての目標を生徒一人ひとりに明確に立てさせるとともに、卒業後の進路先での生活リズムも考えた準備期間の一年とさせる。 進路意識を高めるために、時間管理や身だしなみの大切さを指導していく。そのうえで、保護者や進路指導部、生徒指導部との連携を今年度以上に連携を密に図っていく。		

【3年次以上】			
内 容			評 価
重点目標	(1) 生徒自身が自らの学習上の課題を正確に把握し、目標を立て、その達成に向かって努力し続ける意欲・態度を身に付けさせ、成績優秀者数の増加を目指す。 (2) 様々な課題に柔軟かつ適切に対応し、社会人、職業人として自立していくための未来を切り拓く力を育む。 (3) 特定の分野で活躍することや、自分の得意なことで力を発揮することを通して、自分の個性を認識し、これからの東京・日本を支える人材の育成を目指す。		
具体策	(1) 各教科や保健相談部(SC、YSW)と連携を密にし、各クラス担任が生徒一人一人の学校生活における課題を把握し、その解決に向けて面談や学校連絡サービスなどを通じて、生徒や保護者に指導・助言を図る。 (2) 自他の生命の尊重、規律ある生活など、将来、社会において生きていく上で求められる道徳的価値等に関する意識を深めるために、生徒指導部及び保護者と連		

	携しながら指導・助言を図る。 (3) 進路指導部等を通じて、関係機関(大学・専門学校・企業)との連携を図りながら、高校卒業後の自己の在り方や生き方を意識させることを目的とした「総合的な探究の時間」や「LHR」、長期休業期間の時間の活用を実践する。		
数値目標	(1) 年間成績優秀者30名以上 (2) 年間精勤20名以上 (3) 進路決定率90%以上	成果	B
成果	(1) 進路指導部と協働し、進路学習を進め、生徒自らの意思で進路決定することができた。 (2) 保健相談部・SC・YSWと協働し、生徒が抱える様々な問題への対応に年度最後まで努めることができた。 (3) スポーツ大会や文化祭等の学校行事に生徒が積極的に取り組むことができた。		

IV<<数値目標と今年度の数値：>> []内は今年度数値

1 不登校発生率	4.0%以下 [6.5%]
2 中途退学者	10名以下 [5名]
3 転学・転籍者数	10名以下 [10名]
4 年間皆勤生徒	各年次10% [1年次5, 2年次4, 3年次7%]
5 特別活動の充実(部活動加入率)	50%以上[53%]
6 卒業生徒の進路決定率	90%以上[90%]
7 学校ホームページアクセス件数(年間)	250,000件以上[305,741件]
8 入試倍率 (分割前期・後期)	前期1.3倍、後期1.3倍 [前期1.08倍 後期0.8倍]
9 生徒による授業評価 授業満足度	90% [84%]
10 学校評価 学校満足度	80% (83%)
11 学校説明会等参加者数(校内実施分)	1,200名以上 (1,202名)
12 教職員の超過勤務月45時間以内	超過人数0名 (のべ23名)